

平成 29 年度宝達志水町地域福祉活動計画評価委員会

日時 平成 30 年 3 月 15 日 (木)
午前 10 時 00 分～午前 11 時 45 分
場所 町民センター アステラス
1 階 小会議室

評価委員会	出席者	6 名	中村委員長、松田副委員長、細川委員、室田委員、 村山委員、山黒委員
	欠席者	1 名	村田委員
社会福祉協議会	出席者	7 名	松田会長（挨拶後退席）、米谷局長、下次次長、 今江主任、長谷川主任、北山主任、土上主事

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 社協会長あいさつ
- 4 事前の配布資料に基づき、事務局から基本目標ごとに進捗状況を報告した後、
討議していただいた。

基本目標 1 お互いに助け合える地域をつくろう

● ボランティアの活性化などについて

- ・ 町内にあるボランティア団体はいくつあるか。
⇒ 社協に登録しているボランティア団体は 23 団体。
- ・ どんな団体があり、どんな活動をしているか見えない。団体一覧を保存版などにして全戸配布するという方法もある。
- ・ ボランティアルームについての聞き取り内容と課題は、課題というものではないのではないか。
⇒ アステラス内の編集室をボランティアルームにする案もあったが、ボランティアが望むような部屋ではなく、行き詰った状況である。

●見守り会議、座談会の在り方などについて

- ・地域座談会が継続、または新規で開催できなかった理由は何か。
⇒投げかけたが「やりたい」という集落がなかった。
- ・成果が空欄になっているところがあるが、成果がないのは評価は「1」ではないか。
⇒投げかけたが反響がなく、成果という成果がなかったということ。
- ・「周知」が目標なら、全戸配布は実施できたという意味で「3」あろう。
- ・「地域座談会を全集落で開催」と目標を立てているが、目標の見直しもありではないか。難しいものは目標を下げ、できるものは上げるなど。
- ・集落全体とせず、老人クラブを対象とするなど既存の団体で実施してはどうか。
- ・新しい区長さんに再度投げかけてみるのもよいのでは。また、老人会に投げかけられても難しいものがある。
- ・限界集落の住民はみんな不安。その不安を引っ張り出して働きかけていくしかないのではないか。
- ・社協はこの計画を足掛かりに知名度を上げてほしい。

基本目標 2 安心して暮らせるしくみをつくろう

●助けられ上手講座について

- ・助けられ上手講座の開催が3年で1回の開催となっている。評価「3」は高いのではないか。
⇒目標に開催回数を明記していないため評価は「3」とした。

●外出支援サービスの拡充について

- ・外出支援は地域交通会議で議題にしてみてもどうか。買い物支援を対象にできないか社協から提案してはどうか。
⇒課題は行政も社協も把握しているが、既存業者の兼ね合いが難しい。
- ・とにかく会議で投げかけることができれば、考えてくれるのではないか。
⇒社協としては、近所同士の助け合い（乗り合わせて買い物へいくなど）を推進したい。
- ・それでは事故対応が難しい。
- ・足の問題が一番大切。もっと力を入れてやってほしい。
- ・公式ではない自然なボランティアはたくさんある。
⇒社協は行政ではない。みなさんのような自然と助け合える人が増えてほしい。

基本目標 3 気軽に集えるみんなの居場所をつくろう

- ・特に意見はなかった。

その他

- ・取り組み項目が22あるが、社協として全体の自己評価はどう考えているのか。
⇒全体としては道半ばと考えている。
- ・現状を踏まえて、次の目標を考えていくべき。国のハードルはすごく高い。
社協職員が潰れない範囲でどこまでできるのか。一次計画なので無理はしてほしくないが、目標を決めた以上は努力してほしい。
- ・行政と社協、横のつながりを見せてほしい。

中間評価について

最終的な中間評価は、事務局が示した自己評価どおりとすることの全員の承認を得た。